

国際会議から 鉄道信号に関する国際会議 (ASPECT2019)

本会議は鉄道信号に関する国際会議であり、技術開発のみならずプロジェクト運営やヒューマンファクターなどの幅広い分野を扱っています。

本会議のキーワードはレジリエンスであり、テーマごとに3~4件の発表と最後に全発表者による質疑応答兼ディスカッションの形式で行われました。相互的なやり取りに力を入れているためか、質疑の時間が長く、また同テーマの他発表と絡めての質問も多くあり新鮮でした。筆者の発表は歩行者の安全性向上を目的としており、各国の社会的背景による自己責任の観点の違いや、道路交通に対する対抗心など、国内学会とは異なる議論で盛り上がりました。

会議に参加して印象的だったのが、議論の内容もさることながら、座長や事務局の対応の良さです。懇親会などで座長の方に直接お伺いしたところ、ヨーロッパ圏とはいえ大半の参加者は英語ネイティブではなく、それを理解したうえでお互いの状況を尊重する大切さを強く説かれていました。



デルフトのランドマーク(旧教会の斜塔)



Photo: Howard Elwyn-Jones / IRSE

中曽根隆太

信号・情報技術研究部
画像・IT研究室 研究員

開催国のオランダは母国語(オランダ語)があるものの、非ネイティブ国で世界一英語が通じます(EF EPI 英語能力指数2019年版より)。開催都市デルフトはアムステルダムなどと比べて田舎の方でしたが、地元のお店でも円滑にコミュニケーションがとれ、またどの場面でも非常に好意的に接していただきました。機会をみて今度は旅行で訪れたいと思います。

正式名称：10th ASPECT Conference
開催国：オランダ(デルフト)
期間：2019年10月22日~25日
主催：Institution of Railway Signal Engineers (IRSE)
開催頻度：2~3年に一回
次回開催予定：未定
ホームページURL：<https://www.irse.org/>